

金花七變化

第一四至一七編

13  
1182  
5

2 3 4 4 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 1 2 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 11

卷之七变化

十四海  
十五海  
十六海  
十七海

部 小  
号 20二  
册 八合  
八

特  
一 卷 13  
1182  
5



へ13 特  
1182  
5



編 拾

下の巻

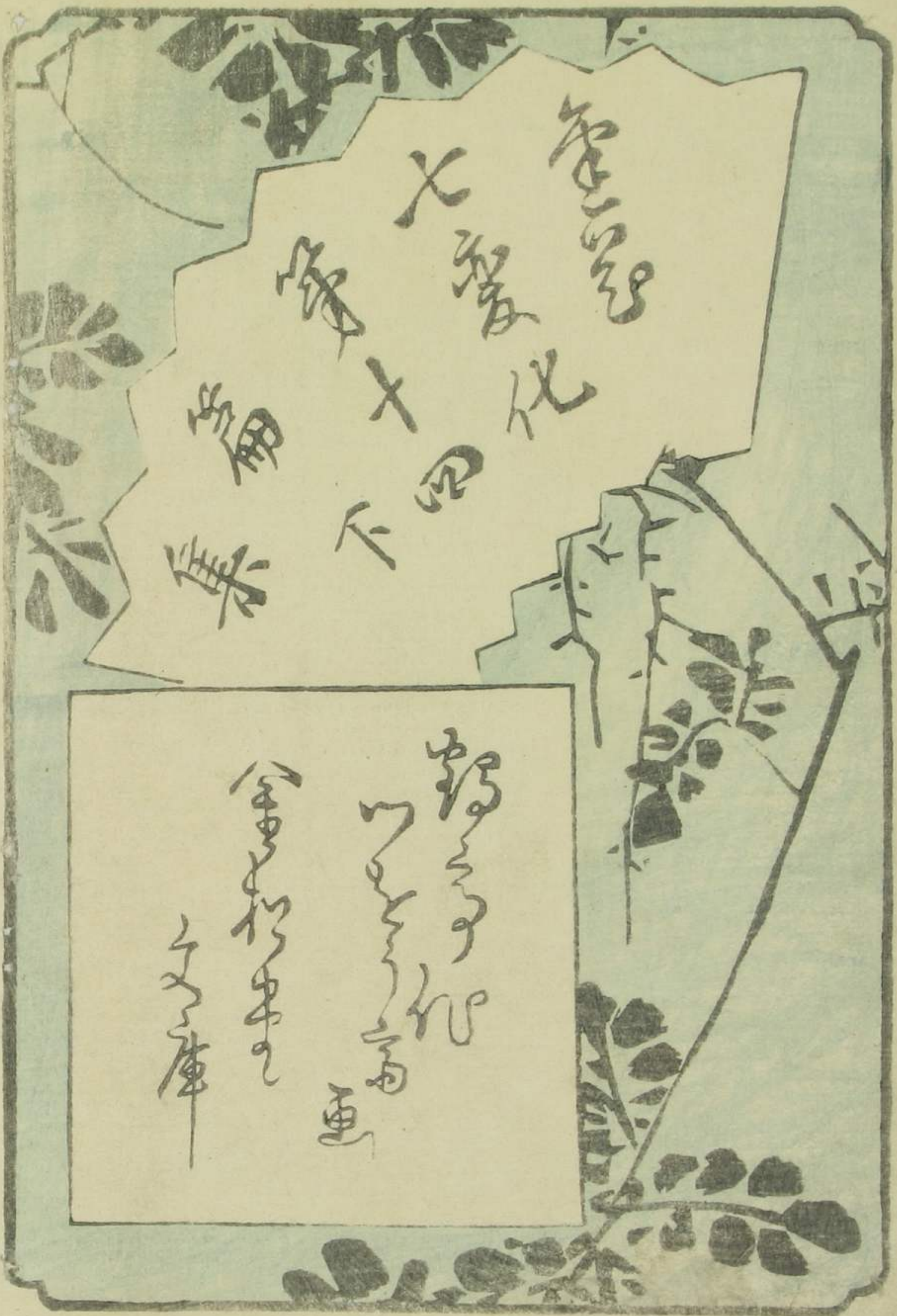
松中

金花  
七變  
化

第拾四篇  
上集

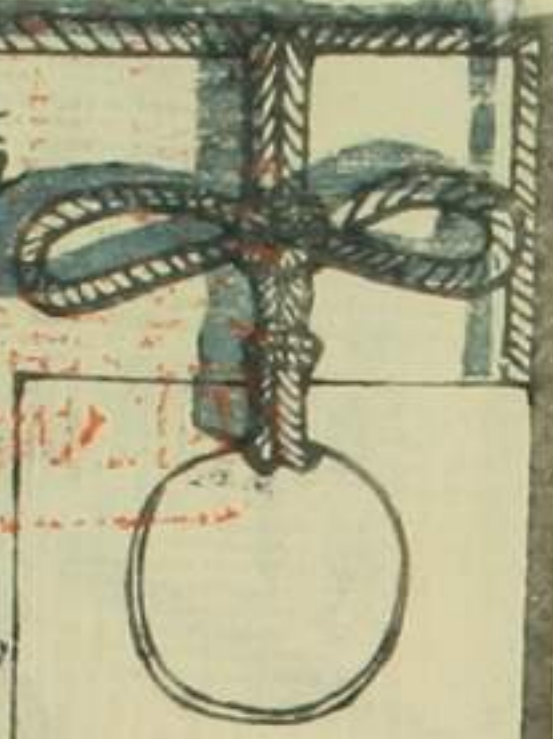
松元  
金松中

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



七  
 十  
 四  
 下  
 集

鶴  
 亭  
 秀  
 賀  
 識



夫木集

風... 秋... 定家

夫鷹鳥の我本朝み渡り... 仁徳天皇四十二年。  
 百濟國より獻むる處めて其道み未女く且彼  
 國の人... 是を酒の君み飼め賜ひ始て  
 和泉國百舌鳥野み御狩有み數多の雉子  
 を得玉ふ故み其所を鷹鳥井郡と定めらる。亦其野を  
 号て鷹鳥井村といふとぞ。于粵用み教言み似されと。卷中み鷹鳥  
 狩の緯あるみよ。此其權輿を誌し以て叙言み換る。



鶴亭秀賀識



文久四龍甲子歲孟陽新史

七



妖猫の為小  
 本心を失ひ  
 継子を悪む  
 東正廣の  
 橋正廣  
 不計由  
 大守の  
 指南番と成る

一六二七



東正廣の  
 後妻浪寄  
 離別され  
 再び妖猫  
 の為よ  
 小竹林半之丞の  
 渾家十六夜  
 妖猫の老母の云



大内義弘

御休息於玉の方



東正廣の  
次女於菊











しるべ

二



しるべ

しるべ

しるべ







ひらり  
あんと  
あて△

大ひらりその  
とまひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその

菊水鏡の  
ひらり  
あんと  
あて△

をひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその



ひらり  
あんと  
あて△

大ひらりその  
とまひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその

菊水鏡の  
ひらり  
あんと  
あて△

をひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその  
ままひらりその  
あつひらりその

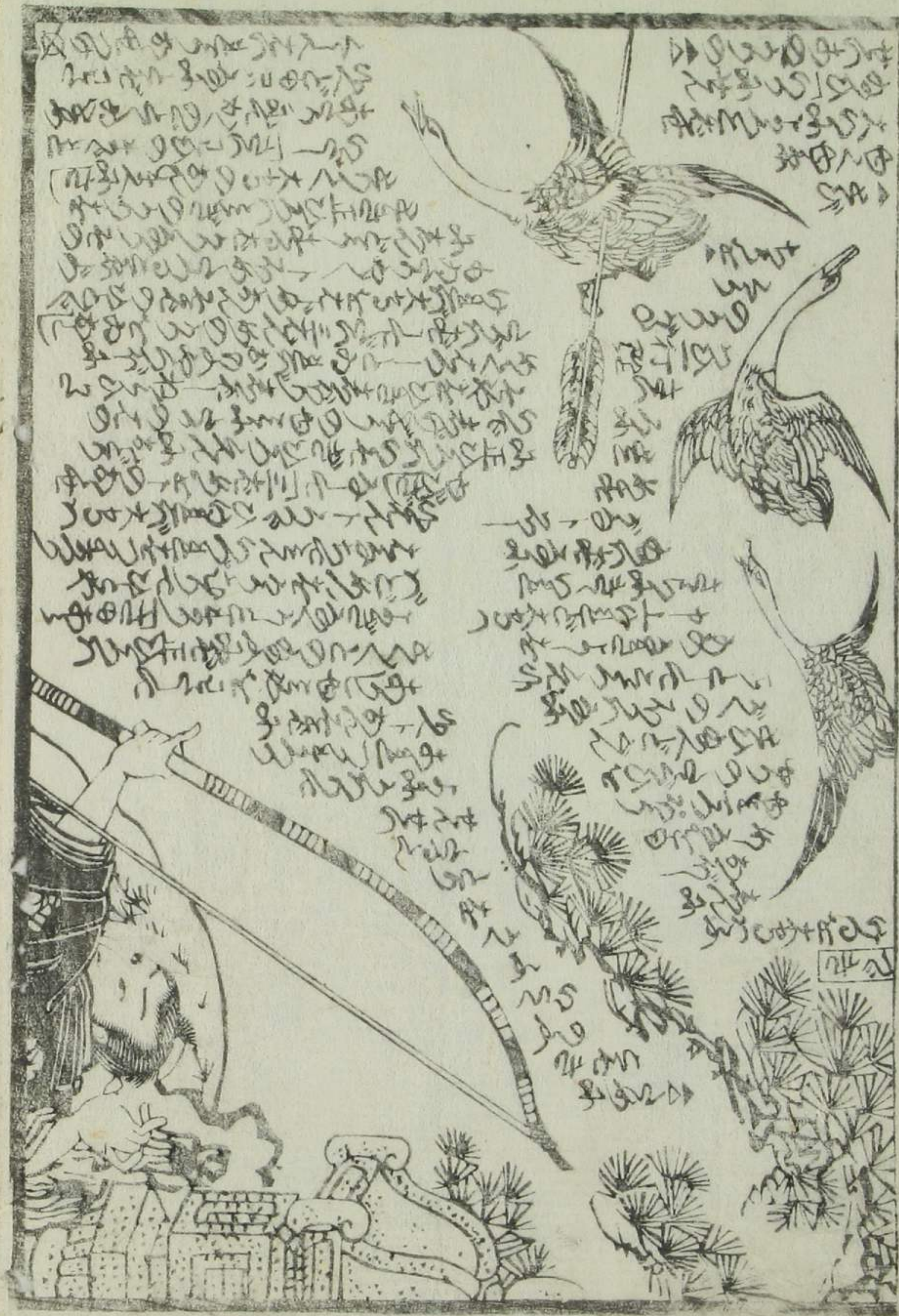




















山の城  
下伊村  
幸太夫  
▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫  
▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫

▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫  
▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫



▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫  
▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫

▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫  
▲山口  
▲城  
▲下伊村  
▲幸太夫





# 鶴亭秀賀作 標蝶樓國貞画

ついでに又多様な工  
なりとのむむと  
るはごころのち  
われまゝとやあら  
をまごせごころ  
ついでに又多様な工  
なりとのむむと  
るはごころのち  
われまゝとやあら  
をまごせごころ



板元敬白  
まのり  
なんのや  
どゆら  
あやう

元治元年 九月初秋

江戸形町通  
飯島啓三郎謹製

武田膏月 大貝百丸

小貝二十銅  
中貝十八銅

神 氣の毒を小児五死諸病よし

仙 一角丸

諸合所 上総國 大野傳兵衛  
東金町

文 地本 問屋 金松堂  
双紙

周防漆櫻模様 四編 貞雅作  
五編 國貞画

梅春霞引始 三編 尊文作  
讀切 國貞画

濡衣女鳴神 十編 尊文作  
讀切 國貞画

道外江名所 大編 廣景画  
番續

横山町三丁目  
辻岡屋文助 柱

元治元年甲子初秋開板標

金華七變化

十五編ヨリ 鶴亭秀賀著作  
廿一篇迄 梅鉢樓國貞画  
右の殊の外御評判宜鋪り々々作者画二世一代の新案新工夫と云  
こゝ彫摺ホ念と入古今の羨本と做しなまら者官競一高覽をわらふ云

水鏡山鳥奇譚

初篇ヨ 鶴亭秀賀作  
三篇迄 一鶯齋國周画

假枕巽八景

初篇 假名垣普文作  
二篇 同 画

和哥紫小町文章

初篇ヨ 鶴亭秀賀作  
追板 歌川國周画

金

地本 双紙 問屋 金松堂

横山町三丁目 辻岡屋文助梓





金半

鶴亭秀賀作  
一壽齋國貞画

上卷





五編

七

下卷

元治元  
子復日  
金松堂  
辻文梓



金半

鶴亭秀賀作  
一壽齋國貞画

上卷

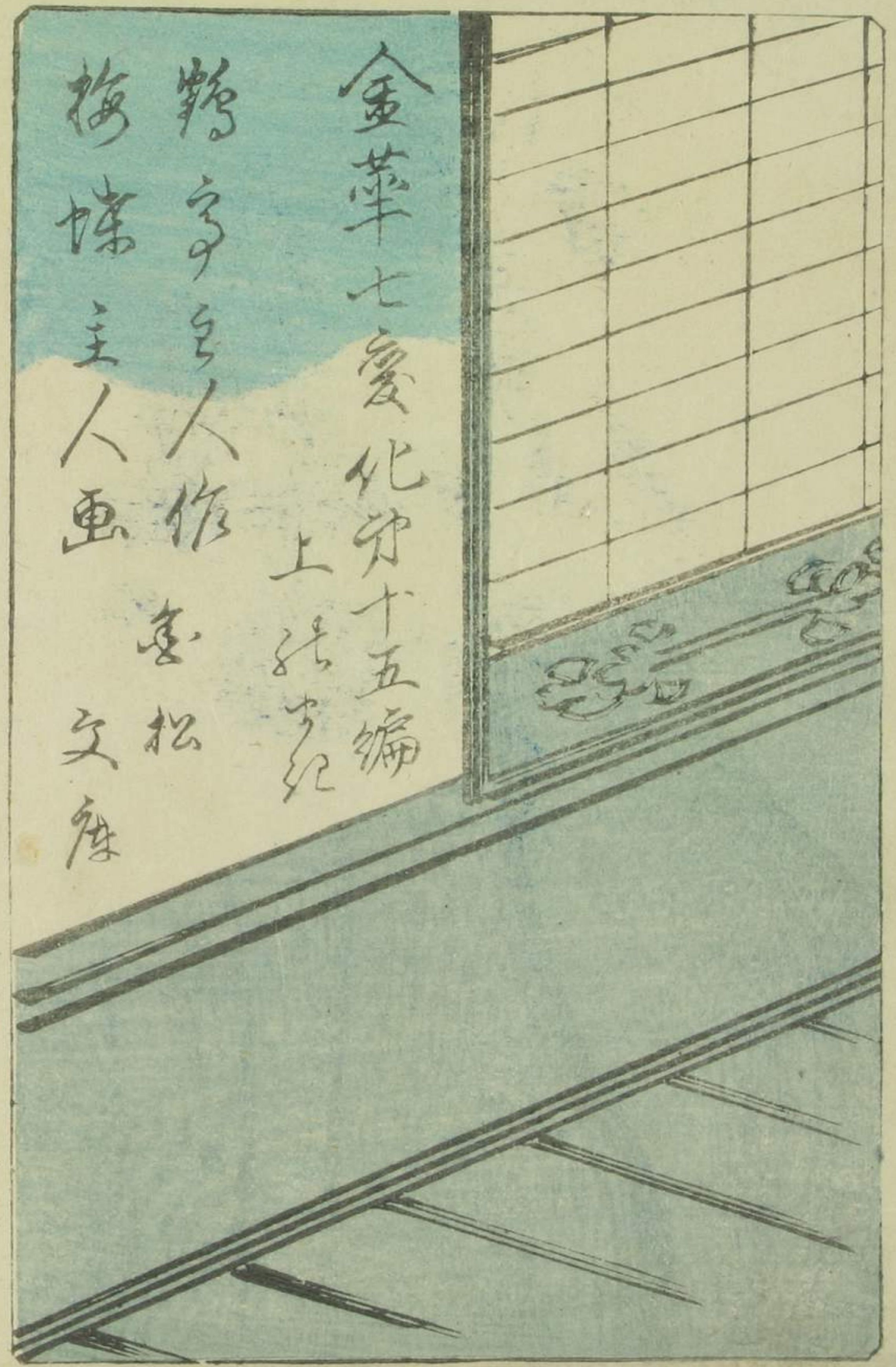


五編

七編

下卷

元治元  
子復日  
金松堂  
辻文棟



金華七変化十五編  
 上巻  
 鶴多主人作  
 意松  
 梅蝶主人画  
 文庫

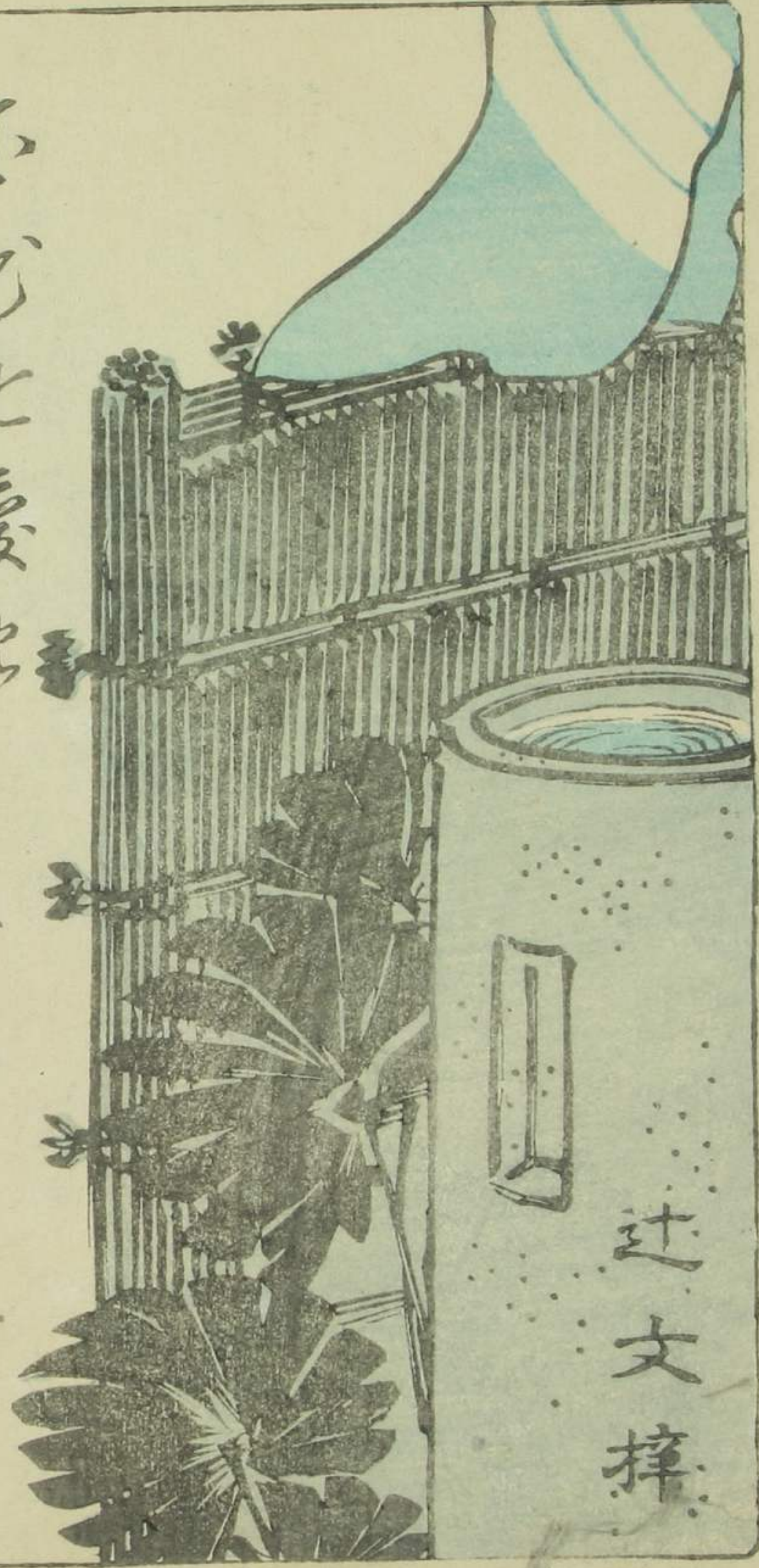


夜静ふし鴨は骨皮叩く音灰は聞え風寒しと獸の  
 炭を焚煙轉舞る雪の夕部も寸暇も机の上は頬杖つく  
 と。想ひ凝せど趣向と共に稍消かす燈火の花と視えき  
 筋もあ。雖然丁子頭の僥倖ありや。次編を接穂乃  
 第出度も。今捻ハ早十有五の數を重し。彼盃も數重は  
 竟も顯る化の皮其金華猫の怪譚も。兎角は眼先の換  
 る成專と利うぬ爪を研立て無暗ふヒツカキ斬ふ草稿畢り  
 小半合の酒は酔さ尽し。腕を曲る其中小亦樂と有めぞし  
 文三拾癸亥冬日稿成同冒子春癸兌 鶴亭秀賀戲識

114/3112

意七愛化 十五編下の巻

美露樓作 梅蝶樓画



辻文梓























つぎさうひふそま  
ひのあゆみやうかひふ  
まらうをきうやうか  
あけあけふ人あけけ  
ささせふふとあきま  
まひさくハウかまきく  
たつへくくくもあわ  
はみーあひとあひん  
ささまらんふふくー  
ささまふのあひん  
びすうくーあひん  
よりささうひふそま  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ

秀賀作



あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ

國貞画

上の巻  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ



あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ  
あひんささうひふそ







半の承のちあち  
 をとつんせー毛  
 の妖猫おちへるま  
 ちくちくのあきぬく  
 ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく

ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく

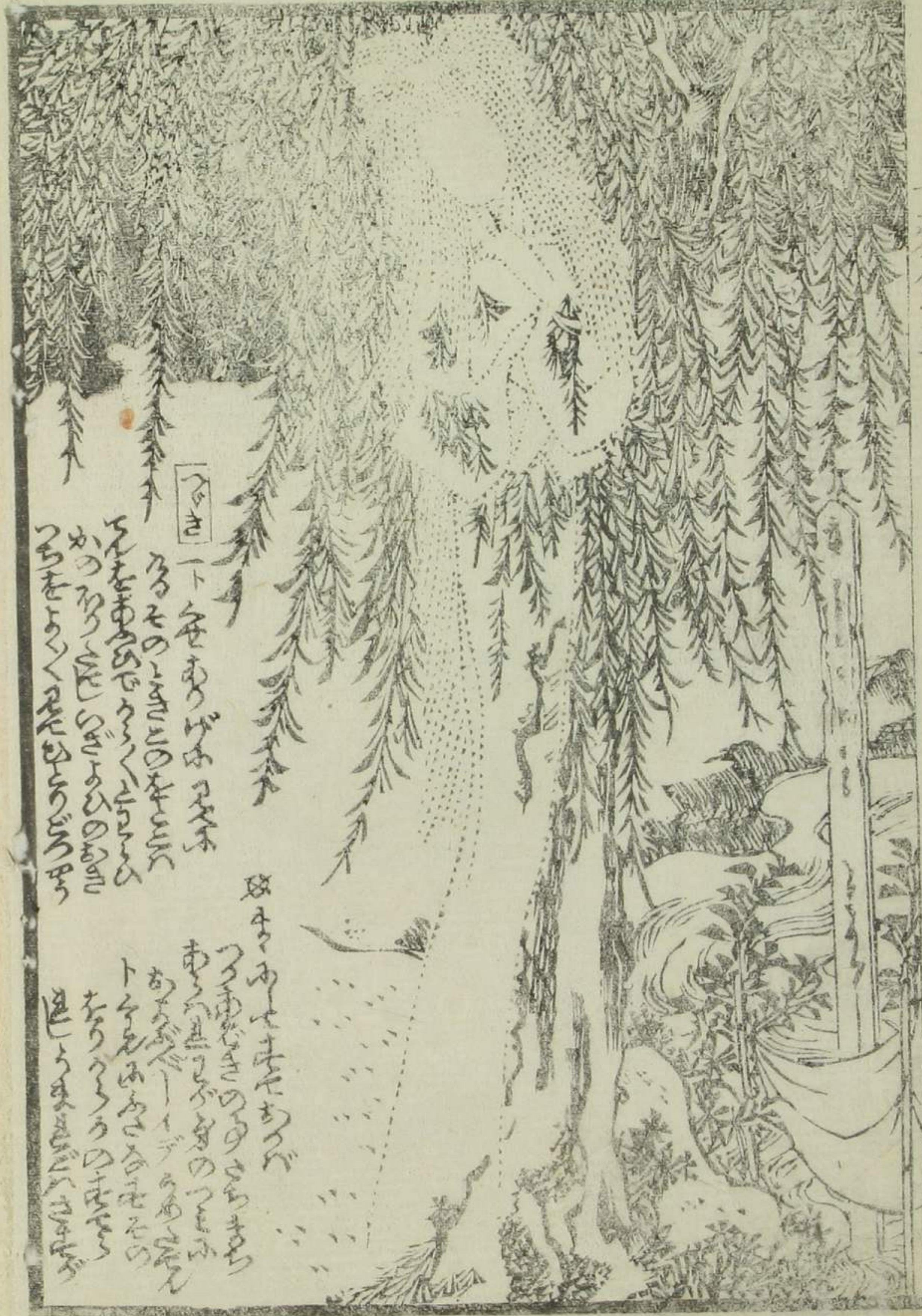


半の承のちあち  
 をとつんせー毛  
 の妖猫おちへるま  
 ちくちくのあきぬく  
 ちくちくちくちくちく  
 ちくちくちくちくちく





Handwritten Japanese text surrounding the illustration. The text includes:  
Top right: 一丁をかりげぬまふ  
Top center: なるそのまじりのまじり  
Top left: かくらりまじりまじり  
Middle left: ちまきよくとまじり  
Bottom right: ちまきよくとまじり  
Bottom center: ちまきよくとまじり  
Bottom left: ちまきよくとまじり  
Far left: ちまきよくとまじり  
Far right: ちまきよくとまじり



Handwritten Japanese text surrounding the illustration. The text includes:  
Top left: ちまきよくとまじり  
Top center: ちまきよくとまじり  
Top right: ちまきよくとまじり  
Middle left: ちまきよくとまじり  
Middle center: ちまきよくとまじり  
Middle right: ちまきよくとまじり  
Bottom left: ちまきよくとまじり  
Bottom center: ちまきよくとまじり  
Bottom right: ちまきよくとまじり

つぎにうづめあび  
 りしの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ



あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

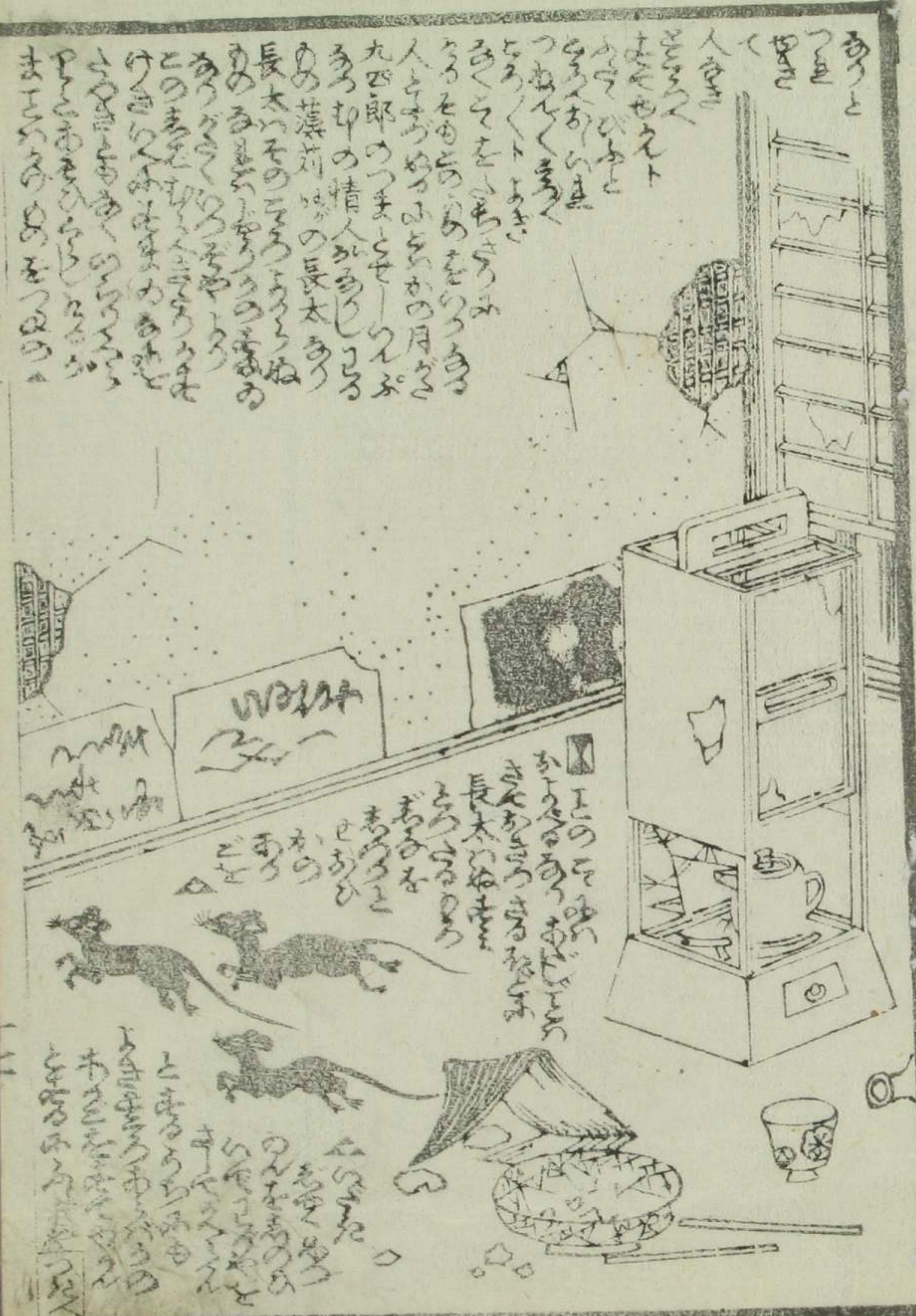
あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ

あはらの工へあは  
 あたしはあはらの  
 母なをもちあは  
 あはらのものをよせ





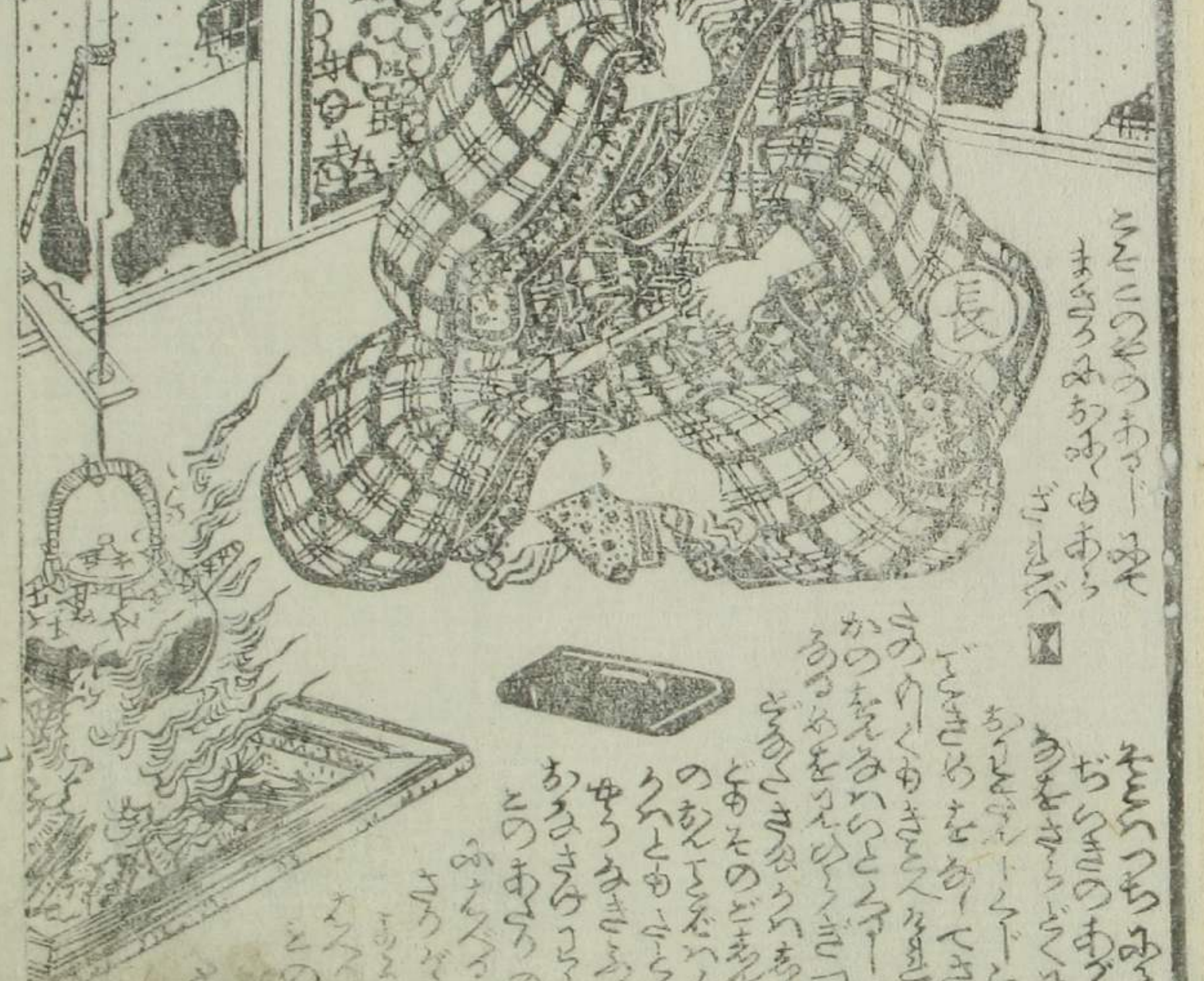


あつたてのうら  
の戸あつたての  
ふりまはひつうの  
女のまのまはひつうの  
なまじりそのまはひつうの  
くらまをまはひつうの  
あつたてのうら  
まはひつうの  
あつたてのうら



あつたてのうら  
の戸あつたての  
ふりまはひつうの  
女のまのまはひつうの  
なまじりそのまはひつうの  
くらまをまはひつうの  
あつたてのうら  
まはひつうの  
あつたてのうら

あつたてのうら  
の戸あつたての  
ふりまはひつうの  
女のまのまはひつうの  
なまじりそのまはひつうの  
くらまをまはひつうの  
あつたてのうら  
まはひつうの  
あつたてのうら



あつたてのうら  
の戸あつたての  
ふりまはひつうの  
女のまのまはひつうの  
なまじりそのまはひつうの  
くらまをまはひつうの  
あつたてのうら  
まはひつうの  
あつたてのうら



鶴亭秀賀作



煤蝶樓國貞画

文 地本問屋金松堂

神 一 角 丸  
諸合所東金町大野傳兵衛

武因高月 大日百丸  
小貝二十銅 中貝十八銅

横山町三丁目 辻岡屋文助梓

道外江名所 大錦 廣景画

濡衣女鳴神 十編 秀和編次 讀切國貞画

梅毒霞引始 三編 善文作 讀切國貞画

周防深櫻模様 四編 貞雅作 五編 國貞画

金華七變化

十五編ヨリ 鶴亭秀賀著作  
廿一篇迄 梅珠樓國貞画  
右の殊の外御評判宜鋪り々々  
作者画二世一代の新案新工夫と云  
ふ小彫摺ホ念々古今の羨本と  
做したるもの者官競一高覽と  
わたり云

水鏡山鳥奇譚

初篇ノ 鶴亭秀賀作  
三篇迄 一鶯齋國周画

假枕巽八景

初篇 假名垣普文作  
二篇 同  
鶴亭秀賀作

和哥紫小町文章

初篇ノ 鶴亭秀賀作  
追板 歌川國周画

文 地本 問屋 金松堂

横山町三丁目 辻岡屋文助梓





鶴亭秀賀作  
壽齋國貞画



嬬

化

下

十  
六  
輯



七  
華  
金



乙  
丑  
春  
新  
鏡

上



鶴亭秀賀作  
壽齋國貞画

十六篇上

變

化

下

金松堂



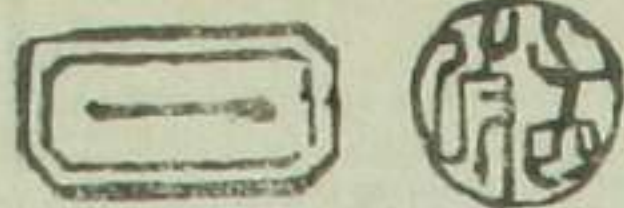
鶴亭秀賀作

國貞画

金華七變化  
十六篇上

乙丑奏

金松堂



金華  
七変化  
第十六  
輯換  
序

夫木集

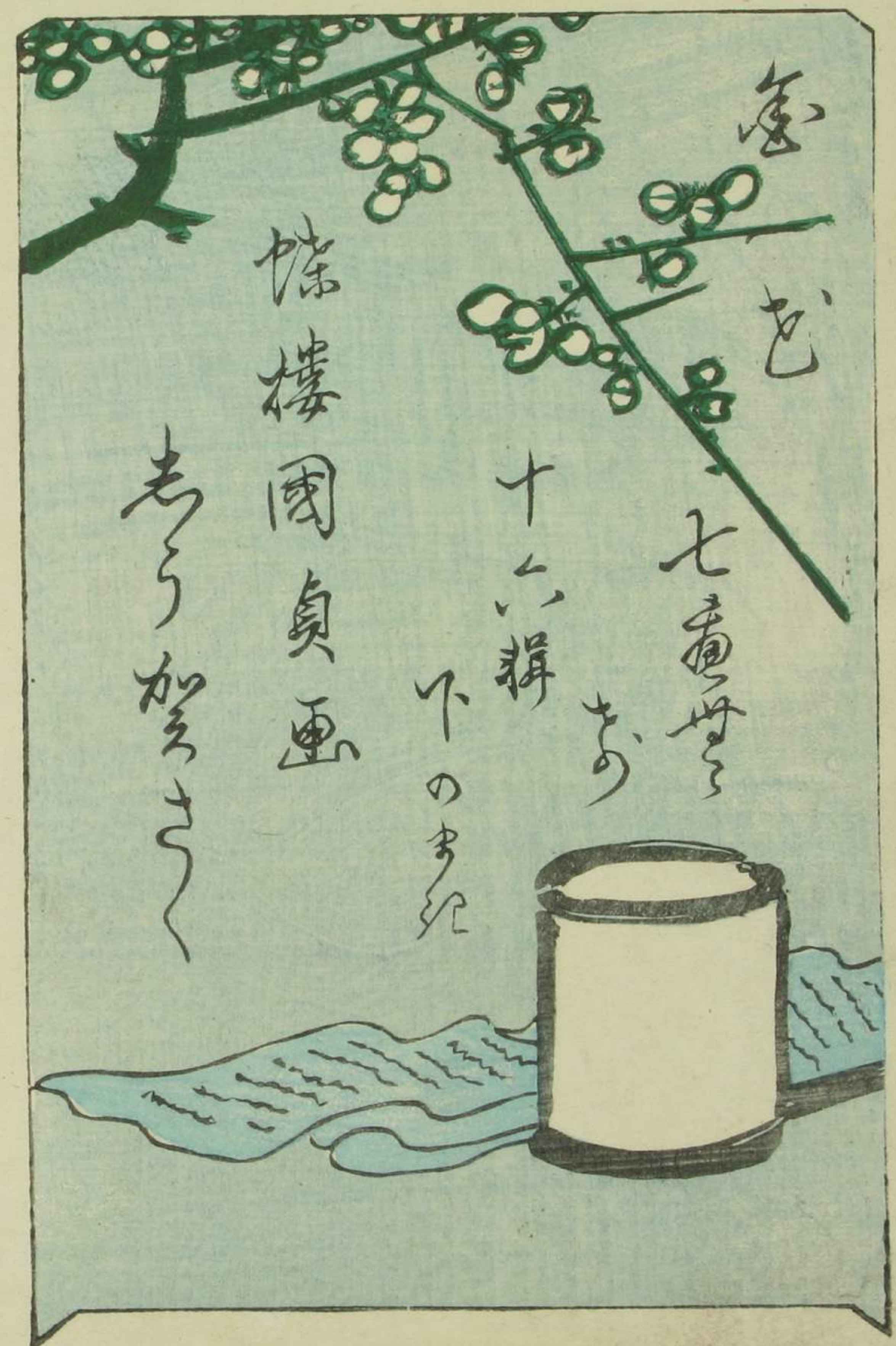
源仲正

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

九治元甲子  
孟春脱稿

鶴亭

秀賀記



意  
七

七通母

十六輯

下の巻

蝶樓園貞画

あまのこゝろ





○大内家の侍臣  
露掛曾波九郎 高盛



○大内家の侍臣

井井佐藤太  
行白

○東嘉  
兵衛正廣  
の乙女  
於菊



○おあつひあつひの長太のあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ

〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ  
 〆あつひあつひのあつひあつひあつひ



忠<sup>ちゆう</sup>膽<sup>たん</sup>  
 義<sup>ぎ</sup>肝<sup>かん</sup>  
 天地<sup>てんち</sup>を  
 貫<sup>つらぬ</sup>く是<sup>こゝ</sup>  
 大<sup>おほ</sup>内<sup>うち</sup>家<sup>け</sup>の  
 英雄<sup>えいゆう</sup>  
 小<sup>こ</sup>森<sup>もり</sup>半<sup>はん</sup>之<sup>の</sup>丞<sup>しやう</sup>  
 晴<sup>はる</sup>光<sup>ひかり</sup>

七五三





つぎは二命をうけて、  
修行者おぼせうけたる  
りるより、うけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
のけをうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり

怪猫の  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり

おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり



おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり

おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり

おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり  
おぼせうけたるまじり





















ゆきをせめて  
めいしうあつこまは  
ひらうよりついで  
大のついで  
の

はらう太  
あつこまは  
ゆきをせめて  
めいしうあつこまは  
ひらうよりついで  
大のついで  
の

あつこまは  
ゆきをせめて  
めいしうあつこまは  
ひらうよりついで  
大のついで  
の

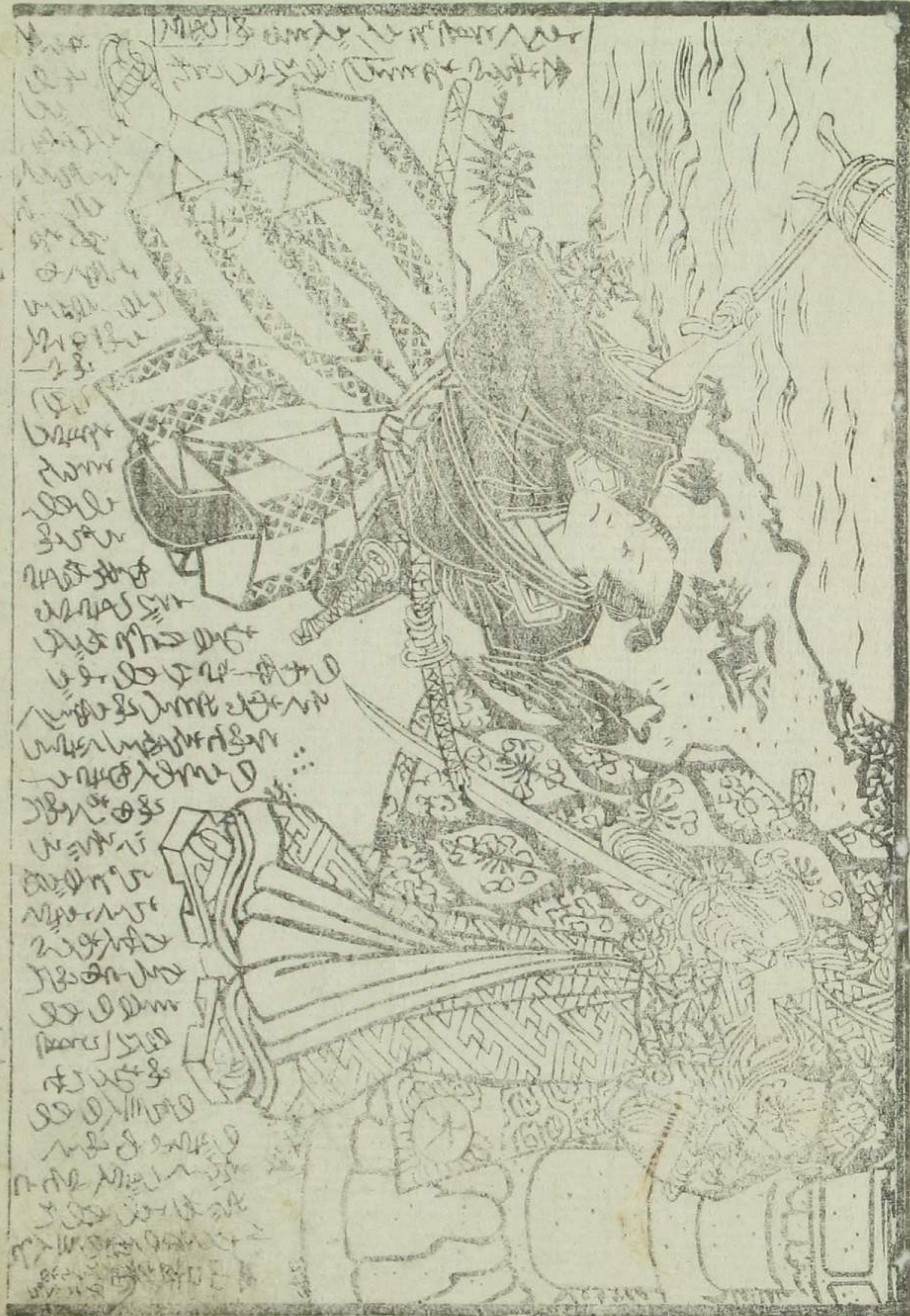


ついでに  
あつこまは  
ゆきをせめて  
めいしうあつこまは  
ひらうよりついで  
大のついで  
の

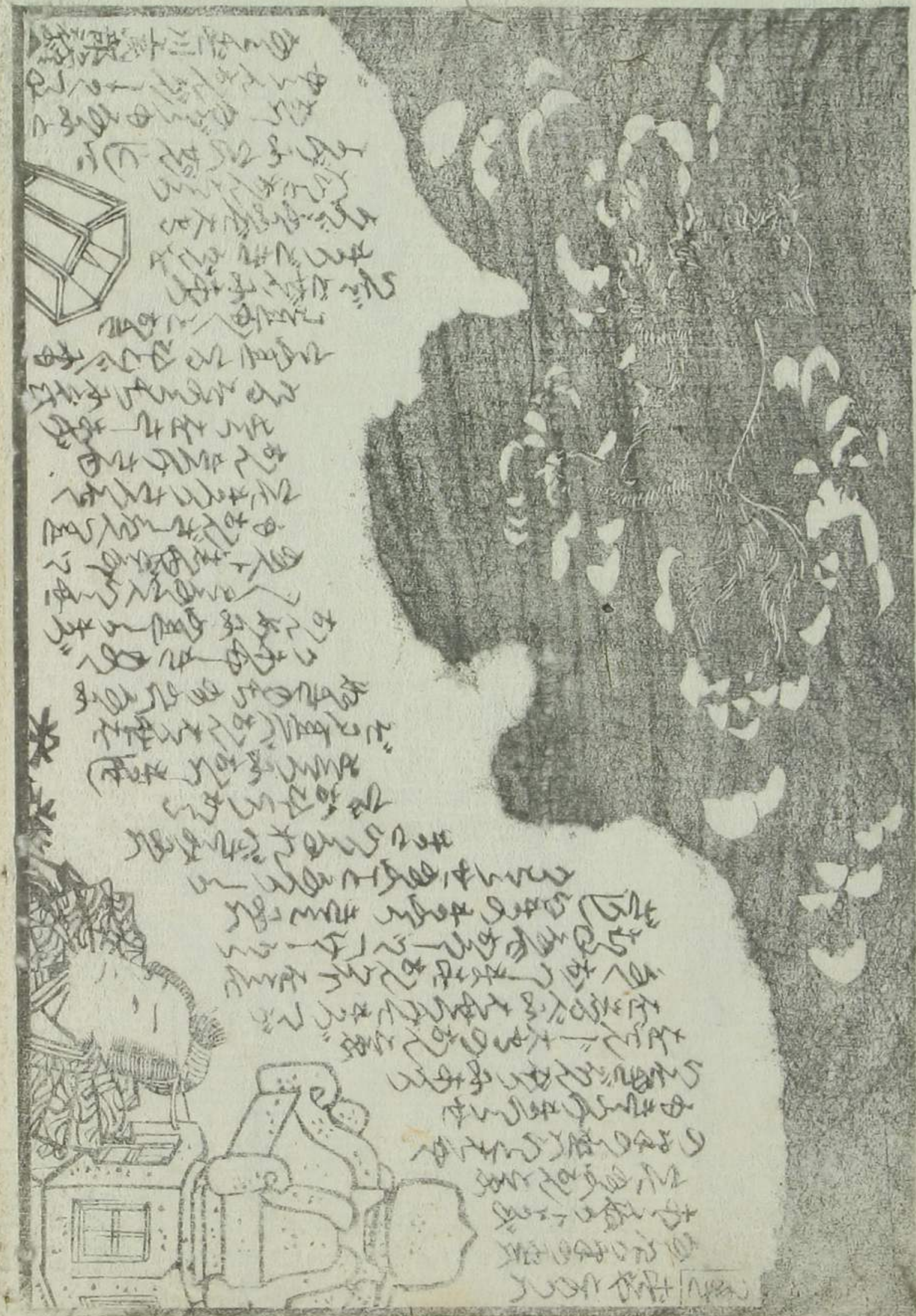
あつこまは  
ゆきをせめて  
めいしうあつこまは  
ひらうよりついで  
大のついで  
の







Vertical text on the left side of the page, likely a title or descriptive text, written in a cursive style.



Vertical text on the left side of the page, likely a title or descriptive text, written in a cursive style.

Vertical text on the right side of the page, likely a title or descriptive text, written in a cursive style.







山崎の天竺堂...  
松竹梅の三徳...  
ちやんちん...

ちやんちん...  
あつちん...  
あつちん...

あつちん...  
あつちん...



あつちん...

あつちん...  
あつちん...

あつちん...  
あつちん...



# 鶴亭秀賀作

つぎ 雁のつらさ  
 るがごとくををいあき  
 まをぞうせ  
 とくくつらさ  
 うひくまを  
 るる用心  
 るるを  
 あらう  
 りやいせ  
 の  
 あんげ  
 小  
 と  
 小  
 ち



# 歌川國貞画

周防染摺模様  
 四編 貞雅作  
 五編 國貞画

梅春霞引始  
 三編 曾文作  
 讀切 國周画

濡衣女鳴神  
 十編 齊賀編次  
 讀切 國貞画

道外江名所  
 五編 廣景画  
 讀切 國貞画

活人形町通  
 飯島三郎謹製  
 武田高月 大目百丸  
 小月二十銀  
 中月十八銀

神 一 角 丸  
 調合所 上総國 大野傳兵衛

文 地本問屋 金松堂  
 双紙

横山町三丁目  
 辻岡屋文助梓

元治元年甲子初秋開板

金華七變化

十五編ヨリ 鶴亭秀賀著作  
廿一篇迄 梅蝶樓國貞画  
右の殊の外御評判宜鋪ゆき  
作者重二世一代の新案新工夫と云  
こゝ彫指ホ念と古今の菱本と做  
したる者官競一高覽をわうや云

水鏡山鳥奇譚

初篇ハ 鶴亭秀賀作  
三篇迄 一鶯齋國周画

假枕巽八景

初篇 假名垣魯文作  
二篇 同 画

和哥紫小町文章

初篇ハ 鶴亭秀賀作  
追々 歌川國周画  
出板

文

地本 双紙 問屋 金松堂

横山町三丁目 辻岡屋文助梓







鶴亭秀賀作  
棋蝶樓國貞画

七  
篇  
結  
化



金

乙丑  
金招堂

上

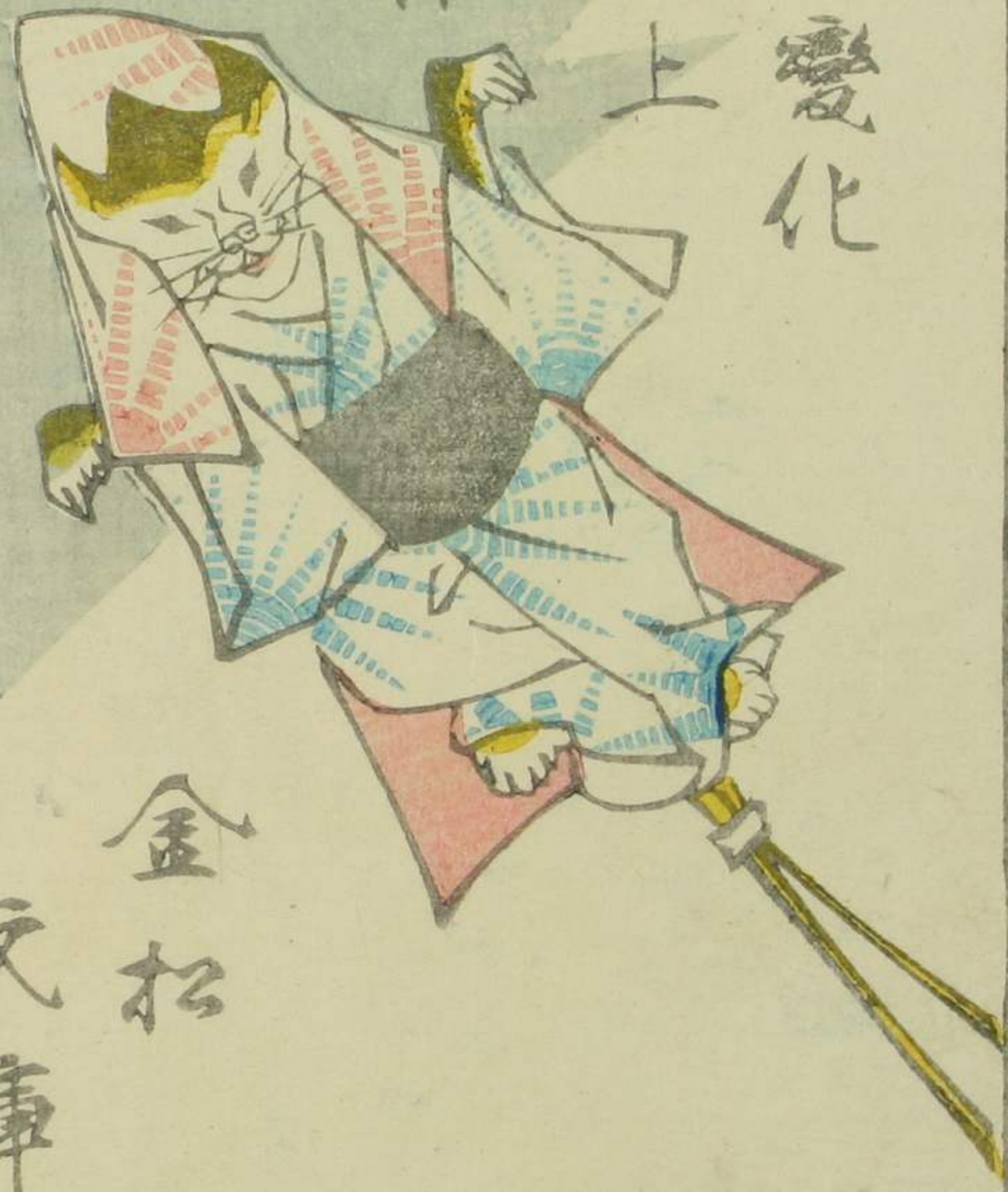
鶴亭秀賀作  
棋味樓國貞画

七  
篇  
變  
化



下

金花七變化  
十七編上  
秀賀作  
國貞画  
乙丑春



金  
松  
天  
庫





まるく  
 ー  
 下のおま  
 新招  
 老こ



貞不貞を  
知らず

○古川  
検校の舎弟  
藪医師  
古川水菴不義の

高き  
浮雲  
の上極め  
遊戯



○水菴の  
秘蔵娘  
藻の花  
蓋口要

○月形九四郎賢吉古川検校が  
怨魂の爲み盲人と多う撥擲の  
四吾市と呼ぶ東海  
道を呻吟ふ





ちのまはるいふまつてきてはる  
 らうそのあふんりやあそ  
 のそしをみるはりのいげの  
 まるあつとちういふとち  
 あつとちういふとちういふ  
 こちういふとちういふとち  
 ちういふとちういふとち  
 めちういふとちういふとち

ちのまはるいふまつてきてはる  
 らうそのあふんりやあそ  
 のそしをみるはりのいげの  
 まるあつとちういふとち  
 あつとちういふとちういふ  
 こちういふとちういふとち  
 ちういふとちういふとち  
 めちういふとちういふとち



ちのまはるいふまつてきてはる  
 らうそのあふんりやあそ  
 のそしをみるはりのいげの  
 まるあつとちういふとち  
 あつとちういふとちういふ  
 こちういふとちういふとち  
 ちういふとちういふとち  
 めちういふとちういふとち

ちのまはるいふまつてきてはる  
 らうそのあふんりやあそ  
 のそしをみるはりのいげの  
 まるあつとちういふとち  
 あつとちういふとちういふ  
 こちういふとちういふとち  
 ちういふとちういふとち  
 めちういふとちういふとち









Handwritten Japanese text surrounding the illustration of the woman, including dialogue and narrative elements.



Handwritten Japanese text surrounding the illustration of the man, including dialogue and narrative elements.

Vertical text on the left margin of the left page.

Small character at the bottom left of the left page.





あつちを直  
くしあちを  
くしあちを



あつちを直  
くしあちを  
くしあちを

あつちを直  
くしあちを  
くしあちを

あつちを直  
くしあちを  
くしあちを



あつちを直  
くしあちを  
くしあちを



あつちを直  
くしあちを  
くしあちを

あつちを直  
くしあちを  
くしあちを





Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or poem related to the illustration above.



Handwritten text in vertical columns at the top of the page, possibly identifying the scene or the person.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the page, continuing the commentary or poem.



こゝろをうつらうつら  
 けしきもよほしき  
 ことゝまのこゝろ  
 よびなきまは  
 死んでのそけ  
 よらうきふらふ  
 やらうきふらふ  
 亡くすまは死に  
 幽明のついで  
 けしきもよほしき  
 まがこゝろを  
 ありそめあ  
 ちまよまは  
 忠孝存けりあ  
 ぞかくてあ  
 そつひの大き  
 あやまき  
 の市にら  
 ぬひのあ  
 まのちのあ  
 とあつちい  
 せんたま  
 の市のあ  
 けしきもよほしき



七  
 変化  
 十七  
 久



こゝろをうつらうつら  
 けしきもよほしき  
 ことゝまのこゝろ  
 よびなきまは  
 死んでのそけ  
 よらうきふらふ  
 やらうきふらふ  
 亡くすまは死に  
 幽明のついで  
 けしきもよほしき  
 まがこゝろを  
 ありそめあ  
 ちまよまは  
 忠孝存けりあ  
 ぞかくてあ  
 そつひの大き  
 あやまき  
 の市にら  
 ぬひのあ  
 まのちのあ  
 とあつちい  
 せんたま  
 の市のあ  
 けしきもよほしき

死  
 けしきもよほしき  
 ことゝまのこゝろ  
 よびなきまは  
 死んでのそけ  
 よらうきふらふ  
 やらうきふらふ  
 亡くすまは死に  
 幽明のついで  
 けしきもよほしき  
 まがこゝろを  
 ありそめあ  
 ちまよまは  
 忠孝存けりあ  
 ぞかくてあ  
 そつひの大き  
 あやまき  
 の市にら  
 ぬひのあ  
 まのちのあ  
 とあつちい  
 せんたま  
 の市のあ  
 けしきもよほしき













けつが中はのびんをえんを  
 ぶら下げておぼろげに  
 おぼろげの人の心を  
 ままろくおぼろげに  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を

二九とある  
 水あいの海草  
 十二のよもぎ  
 水あいの海草  
 十二のよもぎ  
 水あいの海草  
 十二のよもぎ



さきさきのまのめめめめ  
 おめめめめめめめめ  
 ろくろくろく  
 ことばをうしろと  
 あひねらせめめめめめめ  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を

あまひりあまひりあまひり  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を  
 ままろくの人の心を

水あいの海草  
 十二のよもぎ  
 水あいの海草  
 十二のよもぎ  
 水あいの海草  
 十二のよもぎ



元治二年乙丑初秋開版目錄

○ 棋蝶樓國貞畫

つぎのつぎの  
 そとよりいそぎ  
 たるまはさきと  
 きよめこまを  
 せしむるこまを  
 をつとるすまを  
 りふつひりやう  
 けこまよりまを  
 かんざんやまの  
 けいりやうまを  
 そのまのりやう  
 ようりやうのまを  
 うらまきまのまを  
 せんやうのまを  
 みゆえんとまを  
 ものまをまを  
 まをまのまを  
 とつひりやうの  
 のまのまを  
 あまんとまを  
 うらまんとまを

鶴亭秀賀著



さき  
 こまを  
 りつてまを  
 あまんとまを  
 まをまを  
 あまんとまを  
 まをまを  
 まをまを

神 氣の毒せし小兒五死諸病よし  
 一 角 丸  
 調合所 上總国 大野傳兵衛  
 東金町

武田膏 大貝百疋  
 小貝二十疋 中貝四十疋  
 江戸松町通 飯島啓三郎謹製

支 地本 双紙 問屋 金松堂

横山町三丁目 辻岡屋文助梓

周防漆櫻模様 四編 貞雅作  
 五編 國貞画

梅春霞引始 三編 魯文作  
 讀切 國周画

濡衣女鳴神 十編 秀賀作  
 讀切 國貞画

假枕巽八景 二編 魯文作  
 讀切 國周画

道外江戸名所 大錦繪 五十枚 廣景画  
 續



金華七變

化 十七編  
廿五編迄

鶴亭秀賀著作  
梅蝶樓 國貞画

右、殊の外御評判宜しく、おまて作者画二世一代の新、安永新工夫をこらして、お彫摺ホ、念を入き古今の美本と倣、一、官競、高覧をねがふと云

水鏡山鳥奇談

四編 秀賀作  
五編 國周画

本製子油

日本橋通十軒店  
繪及紙 武藏屋勝之助

蓬萊鳴臺 傀儡師

三編 魯文作  
四編 國綱画

花の御所九重日記

初編 秀賀作  
追々 國貞画

折丁の油、和漢よめ、しき、菜、み、考、研、坊、し、諸、痛、を、助、る、と、少、る、を、ぞ、り、一、津、武、家、様、は、女、中、方、肝、要、の、案、之、女、物、と、付、て、さ、ひ、る、と、し、し、た、敷、み、付、て、さ、ひ、る、き、あ、る、中、の、み、多、く、盤、の、名、を、出、し、垂、し、と、本、社、ま、ま、と、云

文 地本雙紙問屋 金松堂

横山町三丁目  
辻岡屋文助梓



三山氏名